

輝け！シン尾花沢中

第177号
令和8年
2月4日

ゆくてののぞみ 語りつつ 自律をめざす わが学園

山形県選手団から「感謝」を学ぶ～野沢温泉村からレポート②～

現在、佐藤海杜さん（1年）が出場する全国中学校スキー大会（アルペン競技）の引率で、野沢温泉村にきています。山形県選手団が同じ宿舎で寝食を共にし、大会に備えています。

昨日までの2日間、海杜さんは、ニュー・グリーンピア津南スキー場で練習しました。本日は、野沢温泉スキー場で練習し、明日の本番に臨みます。

昨日までの山形県選手団のミーティングに参加して、コーチの説話から多くのことを学びましたので、紹介します。

それは、コーチが「感謝」の大切さを懇々と説いていたことです。

ニュー・グリーンピア津南スキー場は隣県の新潟県にあり、野沢温泉村から41kmほど離れています。選手が可能な限り自由に練習できるように、岩手県選手団のコーチの方が、使えるよう調整してくださったそうです。しかも、本県と岩手県の選手団のためだけに、職員の方が、いつもは使わないリフトを、練習の間だけ動かしてくださったそうです。

多くの方々の援助や協力の上で、自分たちが思いきり練習できていることに「感謝」しなければならないし、そのためにも最初の「お願いします」と最後の「ありがとうございました」のあいさつをしっかりとしていかなければならない、と指導されていました。

また、外国の方がリフトに宙づりになって亡くなった痛ましい事故を受けた「ストックを両足の間に挟んでリフトに乗車しない」などのルールの徹底、学校の教育活動と同じであるため、たとえスマホを持っていたとしても「スマホをみながら食事をしない」などのマナーの徹底なども指導されていました。これらのルールやマナーの徹底も、支えてくださる方々への「感謝」を示す行為である、とのことでした。

もちろん、海杜さんをはじめ選手たちは、しっかりとあいさつしているし、ルールやマナーも遵守しています。それでも、コーチは繰り返し「感謝」の大切さを穏やかに語りかけていたことが、印象に残りました。また、コーチの目を見て、うなずいたり「はい」と返事したりしながら、話を聞く選手団の素直さに感心しました。

スポーツは「相手に勝つ」「記録を出す」などを目指して活動します。しかし、最も大切なことは、活動を通して「自分に克つ」「相手を尊重する」「支えてくださる方に感謝する」などの人間としてのよりよい在り方を磨いていくことではないでしょうか。

スポーツだけに限らず、全ての教育活動が健全な青少年の育成につながるものでなければならない、と改めて学ばせていただきました。

教えてくださったコーチの皆様、ありがとうございました。

【文責：校長 工藤雅史】

